

むかしむかしの今の今

浦添市立港川中学校 一年 相良 倫子

とん、とん、むかし。
小さな島に大きな戦がありました。
海に囲まれた美しい小さな島には、
優しい微笑みをたたえた
たくさんの人々が住んでいましたが、
戦のために、みんな死んでいきました。

とん、とん、むかし。
小さな島に大きな戦がありました。
赤花の咲き乱れた緑あふれる美しい島は、
素朴な朴訥な人々が
仲良く暮らしていましたが、
鉄の爆風と銃剣の刃の犠牲となって、
みんな、死んでいきました。

おじいは朝、ウージ畑に続く小道を
皺だらけの顔をもっと皺くちゃにして
笑顔で手を振りながら、
畑に向かって行ったっけ……

おばあは、おじいを見送って、
民謡の鼻歌交じりに軽やかに、
薪を割りに行ったっけ……

おかあは妹をおんぶして、
よしよし、よしよし、あやしながら、
洗濯物を干したっけ……

にいにいは、おじいに昼飯を届けるって、
弁当を大事に抱えながら、
走っておじいを追ったっけ……

今と変わらぬ日常が、
とん、とん、むかしもあったのに、
今と変わらぬいとなみが、
とん、とん、むかしもあったのに、
生きていた、確かに生きた、人間が、
芽吹いていた、山や木々や花々が、
清らかだった、川の瀬が、
さえずり歌った鳥達が、

「めええ」と呑気な
山羊に、
ひらひら飛び交う蝶の羽、
きらっと輝く水面の魚、
遠くで響く牛の声。
美しい日々があったのに……

ズドーン！
ズドーン！
ズドーン！
ズドーン！

一気に何も無くなった。
一気に命が亡くなった。

さっきまでの命の力が、
ズドーン！と共に、
なくなっってゆく。

おじいは？ウージ畑に行ったきり……
おばあは？陽気な鼻歌、聞こえない……
おかあは？妹は？見る影もない……
にいにいはどこ？どこにもいない。
こんな塊、にいにいじゃない！

ああどうして？
みんな懸命に生きていたのに。
ああどうして？
みんなこれ以上をのぞまなかったのに。
ああどうして？
どうして殺した！どうして殺めた!!

手を握る。悔しくて、悲しくて、
情けなくて、愚かで。
手を握る。強く握る。
許せない。おじいを返せ！おばあを返せ！
おかあも、妹も、にいにいも返せ！
島の命を、いとなみを、返せ！返せ！

顔が涙と鼻水で
ぐしゃぐしゃになっても、叫ぶ。

やめて！やめて！戦争をやめて！

とん、とん、むかしにあったこと。
とん、とん、むかしと思っていた。
いや、違う。

とん、とん、むかし、なんかじゃない。
私が生きる、今だって、
とん、とん、むかしと変わらない。
あの日突然、壊れたように。
あの日突然、無くなったように。
とん、とん、むかしが今になる。

私は願う。手を握り。
私は祈る。空を仰ぎ。
国と国とが争えば、
とん、とん、むかしが来てしまう。
私はつながる。心から。
おじいやおばあ、にいにいと。
もう絶対にしないから。
おかあ妹に約束する。
もう、あんなことしないから。

とん、とん、むかしにあったこと。
今に起こしちゃ、いけないと。
国と国との権力で、
純粹無事の、あまたの生を、
ゼロにするのは、大罪だと。

蒼穹広がる六月の空に、
私の祈りは届くかな……

とん、とん、とん、とん、
届くかな……